

六条大麦新品種「シュンライ」

誌名	農業技術
ISSN	03888479
著者	桑原, 達雄 久保田, 基成 井ノ口, 明義
巻/号	46巻3号
掲載ページ	p. 136-136
発行年月	1991年3月

研 究 通 報

六条大麦新品種「シュンライ」

桑原達雄 久保田基成 井ノ口明義

登録番号：六条大麦農林32号 系統名：東山皮85号 交配組合せ：ミノリムギ／東山皮68号

特 性 の 概 要

叢性はやや匍匐し，葉色はミノリムギよりやや濃い。稈長はアサマムギとほぼ同等でミノリムギより10cm程度短い。稈の太さはミノリムギ並であるが，稈質はやや強い。穂長はミノリムギより短い，アサマムギよりやや長い。粒形はやや長く大粒で，1重はミノリムギ並であるが，千粒重は大きい。

原麦の外観品質はミノリムギ並で良好である。並性の六条皮麦種である。

播性の程度はIで，茎立はやや早い。出穂期はアサマムギとミノリムギの間中だが，成熟期はアサマムギとほぼ同等である。耐倒伏性はミノリムギより優り，アサマムギ並の強である。耐寒性，耐雪性はアサマムギ並でミノリムギよりやや劣るが，耐凍上性はミノリムギ並に強い。収量性はミノリムギには及ばないが，アサマムギと同等かやや多収である。うどんこ病，赤かび病にはやや弱いが，縞萎縮病，斑葉病には強い。粒質は中間質で，精麦時間がミノリムギより短い。精麦歩留，精麦白度もミノリムギより優り，切断麦にする際，粘り(硬度差異)があり，碎け難い性質があり，精麦加工適性は極めて優れる。

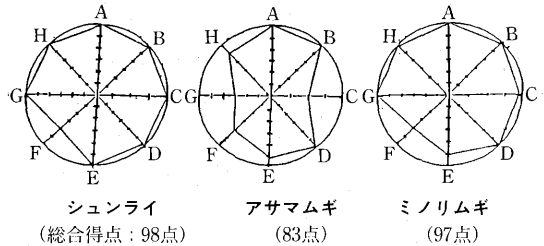
適応地域と栽培上の注意

関東北部・東山地方・北陸地方及び南東北地方の少雪地帯に適す。

うどんこ病の耐病性は十分とはいえないので，発生の際には防除に留意する。播性が春播型の早生種であるので適期播種に務め，越冬性の向上を図る。

奨励品種採用県：長野県

命名の由来：良質大麦の生産に，春雷のような衝撃と力強さを与える願いが込められている。



シュンライの精麦品質

(平成元年長野農試産，白麦米株式会社検定)

形質名(得点配分) A:白度(30) B:歩留(20) C:黒条線(15) D:硝子率(15) E:粒度(5) F:硬度(5) G:硬度差異(5) H:千粒重(5)

育 成 後 記

ミノリムギは多収，良質品種として広く作付されているが，熟期がやや晩いということと耐倒伏性が不十分という欠点を有していた。この欠点を補う意味で登場したアサマムギは，一時は長野県内で作付の50%近くを占めたが，昭和63年度を機に急激に減少し，中生品種のミノリムギに事実上作付が一本化されてしまった。背景には，良質麦を求める精麦業界の強い意向があり，アサマムギより加工適性の優るミノリムギに再び作付を移さざるを得なかったという事情がある。押麦から切断麦へと精麦加工製品が移行しつつある現在，業界はミノリムギよりさらに良質の大麦を求めている。このような情勢の中で早生，良質大麦の育成が急務とされたが，当試験地で昭和53年5月に交配し，以来，精麦特性に重点をおいて選抜を重ね育成されたシュンライは，早生，強稈，多収という優れた農業形質を持つだけでなく，切断麦への適性が高いという長所を有しており，まさに時流にあった品種といえる。シュンライが低迷を続ける大麦の需要の拡大に一石を投じることを期待したい。

育成従事者：斎藤 稔，田中幹男，牛山智彦，桑原達雄，泉 克明，赤沼礼一，酒井忠久，久保田基成，井ノ口明義 (長野県農事試験場麦類育成指定試験地)

T. KUWABARA M. KUBOTA and A. INOKUCHI: A New Six Rowed Barley Cultivar "Shunrai". 農業技術 46(3), 1991.